

2. 地域における担い手の確保状況

担い手は十分確保されている / 担い手はいるが十分ではない / 担い手がいない

3. 将来の農地利用のあり方

コメント
担い手に集積・集約化する。

4. 農地流動化のための農地中間管理機構の活用方針

コメント
農地の出し手は、原則として農地中間管理機構を活用する。

5. 近い将来農地の出し手となる者と農地

氏名	年齢	現状(R3年度)		計画(R8年度)		利用しなくなる農地面積	農地中間管理機構への貸付希望の有無			備考 (今後の役割等)
		作物	規模 (ha)	作物	規模 (ha)		農地面積	貸付時期		
A					0	0.3	有	0.3	H27済	
B		水稻・野菜	0.58	野菜	0.05	0.52	有	0.52		

6. 今後の地域農業のあり方(地域の中心となる経営体とそれ以外の農業者を含めて)

取組事項	対応	コメント
生産品目の明確化		1、低コスト化…農地集積を進めて営農を効率化し、生産コストの削減を図る。現在は集落内の農家が個別に営農しているが、将来的に営農化を進めていく。その、前段として、人・農地プランを策定し、集落内で営農組織化に向けての気運を高めていく。 2、現在遊休農地化している農地は、ラベンダー植栽活用事業にてラベンダーを作付けし、農地の有効利用を図る。
複合化		
6次産業化		
高付加価値化		
新規就農促進		
その他(低コスト化)	○	

実質化された人・農地プラン追加事項

市町村：多可町

集落名：八千代区中村

1.対象地区の現状

①地区内の耕作面積	15.9 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	15.9 ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	4.2 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	1.0 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.0 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	1.6 ha
(備考)	

2.将来の農地利用のあり方

取組事項	対応	具体的な取り組み
担い手に集積、集約化する	○	担い手への集積・集約化に努める。なお、担い手の高齢化も進んでいるため、農地集積先として集落営農組織の必要性についても検討する
担い手の分散錯圃を解消する	○	中村農会及び地域の担い手で話し合い、担い手が営農しやすい集約化を進める
新規参入を促進して、新規参入者に集積集約化する	○	新規参入者を積極的に受入れ、新たな担い手となれるよう地域が協力して支援する
耕作放棄地を解消する	○	守るべき農地については、耕作放棄地にならないよう地域が協力する

3.2 についての農地中間管理機構の活用方針

取組事項	対応	具体的な取り組み
地域の農地所有者は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	左記のとおり中間管理機構を活用し、地域農地の保全に努める
農業をリタイア・経営転換する人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	
担い手の分散錯圃を解消するため利用権を交換しようとする人は、原則として農地中間管理機構に貸し付ける	○	